

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
コーチング論 Coaching Theory		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(「スポーツリーダー」「スポーツプログラマー」「ジュニアスポーツ指導員」 資格取得者科目)	トレーニング論
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
加藤 秀治	本館 2F	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
様々なスポーツ分野のコーチング(指導法・トレーニング法・マネジメント法など)について学習し、自らのコーチング哲学を構築する。また心理的なサポートを行うことによりスポーツ参加への動機づけを行い、その行動変容が見られるようなコーチングが行えるようその基礎を学ぶ。				
授業の目標				
①各年齢層に応じた、運動指導の必要性が説明できるようにする。 ②スポーツを楽しんでいた児童や生徒がなぜ、スポーツからバーンアウト(逃避)してしまうのか、その理由を説明できるようにする。 ③指導中に事故が起こらないために、危険予知能力や危険回避能力といったリスクマネジメントを実践することができるようにする。 ④スポーツを楽しむ人が多くなるための、行動変容に結びつくアドバイスができるようにする。				
授業の方法				
講義、スポーツ指導案作成および発表の演習授業				
学習の成果(学習成果)				
①青年から高齢者まで、年齢層に応じた運動指導プログラムの構成ができ自分自身で指導ができる。 ②スポーツを行っていない人に対して、スポーツをはじめてもらいきっかけとなるアドバイスができる。 ③スポーツに潜んでいる危険や事故について理解でき、指導者としてその回避方法を導き出すことができる。 ④総合型地域スポーツクラブの運営ができ、同時に指導にもかかわることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業にあたっての態度と注意点、授業内容の確認、成績評価方法、スポーツリーダー・スポーツプログラマー・ジュニアスポーツ指導員資格等について)			
第2回目	スポーツ指導の意義とスポーツ指導者の倫理			
第3回目	スポーツ指導者の基本(求められる指導者像、生涯スポーツのためのスポーツ指導者、ジュニア期のスポーツ指導者)			
第4回目	競技者スポーツのための指導とその育成プログラムの理念			
第5回目	スポーツ中のリスクマネジメント			
第6回目	スポーツと人権 スポーツと心			

第7回目	スポーツ指導者のコミュニケーションスキル①
第8回目	スポーツ指導者のコミュニケーションスキル②
第9回目	スポーツ指導者のコミュニケーションスキル③
第10回目	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
第11回目	スポーツへの動機づけ
第12回目	指導計画の立て方
第13回目	スポーツカウンセリング①
第14回目	スポーツカウンセリング②
第15回目	スポーツカウンセリング③

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	S評価は私語なく講義に集中し、指示された必要事項をノート等にまとめ記載している。
レポート		
調査報告書	10%	各自が住む「総合型地域スポーツクラブ」について調査する課題
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	60%	各自が考えた運動プログラムについて指導案を作成し、そのプログラムを基として他学生を対象に指導を行い両方を評価の対象とする
その他		

教科書と参考図書

教科書：「健康運動実践指導者養成テキスト」（健康・体力づくり事業財団）

参考図書：「公認スポーツ指導者 養成テキストⅠ・Ⅱ」（日本体育協会）

「公認スポーツプログラマー養成テキスト」（日本体育協会） 「公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト」（日本体育協会）

「現代の体育・スポーツ科学 体力の発達」朝倉書店

履修上の留意点・ルール

- ・教室への食べ物の持ち込み禁止と携帯電話の使用禁止